

平成二十年一月十六日、新年歌会始が「火」をお題に皇居で開かれる。お題に「火」が登場するのは歌会始で初めてだ。果たして、平成の老若男女はどんな「火」を和歌に込めるのだろうか。

全国のオール電化攻勢は実に激しい。火を使わない家々、火の使い方をおからも兄弟からも学ばない子供たちが育ちつつある。それで良いのか。ここ数年、LPガス業界にはこんな疑問が巻き起こり、安全 concernsをはじめ、クリーンLPガスを源にした温かな暮らしの提案活動が大きなウェーブとなっている。

LPガス業界にとって、今年の歌会始のお題は誠に喜ばしく、大きな応援になる。火のある暮らしは人類の原点。プロパン・ブタンニュースはチーム・マイナス6%運動に賛同し、LPG報道で「make it possible with Gas」を掲唱し続けているが、この精神を旨に「LPガス業界人 炎の万葉集」を企画した。昨年十月から短歌・俳句・川柳を公募したところ、選考委員会には

全国各地から百を超える作品が届いた。業界人の心の底から湧き立つ思いを、日本古来の歌心、また洒落心を乗せて詠った味わい深い作品ばかりである。中には社内公募を行い、選考会を通過した秀作を本紙に投稿して下さった企業や団体もある。また、一人十作品も投稿して下さった熱心な方もいた。

掲載作品は、お題を「火」とし、「火」または火部の漢字(灯、炎、炙、炒、炊、炊、焚、煙、燂、燃など)を使った未発表作品を条件とした。掲載作品は原則一人一作品としたが、複数作品の投稿者も多く、その場合には選考の上で一人三作品までを掲載することにした。掲載した作品は短歌・俳句・川柳を区分けせず、作品・作者を百作品に絞って順不同に並べた。作品には適度にルビもふった。ここに投稿いただいたすべての皆さまに感謝を申し上げます。

石油化学新聞社/プロパン・ブタンニュース編集局「平成二十年LPガス業界人 炎の万葉集」選考委員会

月の出ぬ 夜はとなりのガス灯の
淡き光の点るを待ちぬ

川本千恵子 (川本宜彦サイサン会長夫人)